

マルチスレッド ハンズオン

第2回 タスクの実行とキャンセル

アジェンダ

- ・ 前回のおさらい
- ・ 並行コレクション
- ・ タスクの実行
- ・ タスクのキャンセル

前回のおさらい

宿題の解答

- ・ StringBuilderがスレッドセーフでないことを示すソース

宿題の解答

- ・ SimpleDateFormatがスレッドセーフでない理由

宿題の解答

- java.text.DateFormat.javaの先頭の方
- ```
26 /*
27 * (C) Copyright Taligent, Inc. 1996 - All Rights Reserved
28 * (C) Copyright IBM Corp. 1996 - All Rights Reserved
29 *
30 * The original version of this source code and documentation is copyrighted
31 * and owned by Taligent, Inc., a wholly-owned subsidiary of IBM. These
32 * materials are provided under terms of a License Agreement between
33 * Taligent
34 * and Sun. This technology is protected by multiple US and International
35 * patents. This notice and attribution to Taligent may not be removed.
36 * Taligent is a registered trademark of Taligent, Inc.
37 *
38 */
```

# 宿題の解答

ページ ノート 閲覧 編集 履歴表示 検索 

## Taligent

**Taligent**(タリジェント)は、1992年にアップルコンピュータとIBMが共同で設立した会社、およびその会社の開発していた**オブジェクト指向**の次世代オペレーティングシステム (OS) の名称である<sup>[1][2][3]</sup>。これは1991年のIBMとアップルの包括的提携の実現化の1つ<sup>[4]</sup>で、1994年にはヒューレット・パッカードも資本参加した<sup>[5]</sup>。

### 目次 [非表示]

- 1 概要
- 2 参照
- 3 関連項目
- 4 外部リンク

# synchronized(this)の.NETでの問題

- ・ stackoverflowで見つけた  
<http://stackoverflow.com/questions/251391/why-is-lockthis-bad>
- ・ MSDNにも記載されている  
<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/c5kehkcz%28v=vs.110%29.aspx>
- ・ thisをロックする他の処理があるかも知れないので、thisをlock文で使うのはよくない
- ・ Javaでも同様の問題が起こりうる



# synchronized(this)の.NETでの問題

## ダメな例

- SynchronizedThis.java

```
final SharedObject sharedObject = new SharedObject();
```

```
new Thread(new Runnable() {
 public void run() {
 // 外部からインスタンスのロックを取得
 synchronized(sharedObject) {
```

...

```
static class SharedObject {
 public void method1() {
 synchronized(this) {
 System.out.println("method1 called.");
 }
 }
}
```

sharedObjectに対するロックがクラス内部、クラス外部の両方から取得できてしまう。

# synchronized(this)の.NETでの問題

## 良い例

- PrivateLockObject.java

```
final SharedObject sharedObject = new SharedObject();
```

```
new Thread(new Runnable() {
 public void run() {
 // 外部からインスタンスのロックを取得
 synchronized(sharedObject) {
```

...

```
static class SharedObject {
 private Object lockObject = new Object();
 public void method1() {
 synchronized(lockObject) {
 System.out.println("method1 called.");
 }
 }
}
```

プライベートメンバlockObjectを用意することで、外部からインスタンスのロックに関わらずmethod1の同期化が可能。

# クラスメソッドの同期の話

- SynchronizedStaticMethod.java

```
public synchronized static void method1() {
 try {
 System.out.println("method1 called.");
 Thread.sleep(3000);
 } catch (InterruptedException e) {
 // 何もしない
 }
}

public synchronized static void method2() {
 try {
 System.out.println("method2 called.");
 Thread.sleep(3000);
 } catch (InterruptedException e) {
 // 何もしない
 }
}
```

method1とmethod2はクラスに対するロックを取得するので、method1とmethod2を複数スレッドから同時にコールしても、メソッドの実行が完了してから、もう一方のメソッドが実行される。

並行コレクション



# MapのiterateでConcurrentModificationExceptionが発生する問題（１）

- NonThreadSafeMap1.java

```
final Map<Integer, Integer> map = Collections.synchronizedMap(new
HashMap<Integer, Integer>());

new Thread(new Runnable() {
 public void run() {
 for(int i=0; i<NUM_DATA; i++) {
 map.put(i, i);
 }
 }
}).start();

new Thread(new Runnable() {
 public void run() {
 for(int i=0; i<NUM_LOOP; i++) {
 Iterator<Integer> ite = map.keySet().iterator();
 while(ite.hasNext()) {
 ite.next();
 }
 }
 }
}).start();
```

java.util.ConcurrentModificationExceptionが発生してしまう。なぜか。

# MapのiterateでConcurrentModificationExceptionが発生する問題（2）

・ NonThreadSafeMap2.java

```
final Map<Integer, Integer> map = Collections.synchronizedMap(new HashMap<Integer, Integer>());
```

```
new Thread(new Runnable() {
 public void run() {
 for(int i=0; i<NUM_DATA; i++) {
 map.put(i, i);
 }
 }
}).start();
new Thread(new Runnable() {
 public void run() {
 for(int i=0; i<NUM_LOOP; i++) {
 synchronized(map) {
 Iterator<Integer> ite = map.keySet().iterator();
 while(ite.hasNext()) {
 ite.next();
 }
 }
 }
 }
}).start();
```

iterateしている間、mapをロックしてしまえば、問題は回避できるが、サイズの大きいMapを処理する場合、処理効率が悪い。（ループしている間、mapへの操作ができなくなる。）

# MapのiterateでConcurrentModificationExceptionが発生する問題（3）

- ThreadSafeMap.java

```
final Map<Integer, Integer> map = new ConcurrentHashMap<Integer, Integer>();

new Thread(new Runnable() {
 public void run() {
 for(int i=0; i<NUM_DATA; i++) {
 map.put(i, i);
 }
 }
}).start();

new Thread(new Runnable() {
 public void run() {
 for(int i=0; i<NUM_LOOP; i++) {
 Iterator<Integer> ite = map.keySet().iterator();
 while(ite.hasNext()) {
 ite.next();
 }
 }
 }
}).start();
```

ConcurrentHashMapを使うことで、ConcurrentModificationExceptionが発生してしまう問題と、処理効率の問題を同時に解決できる。

## \* MapのiterateでConcurrentModificationException が発生する問題（４）

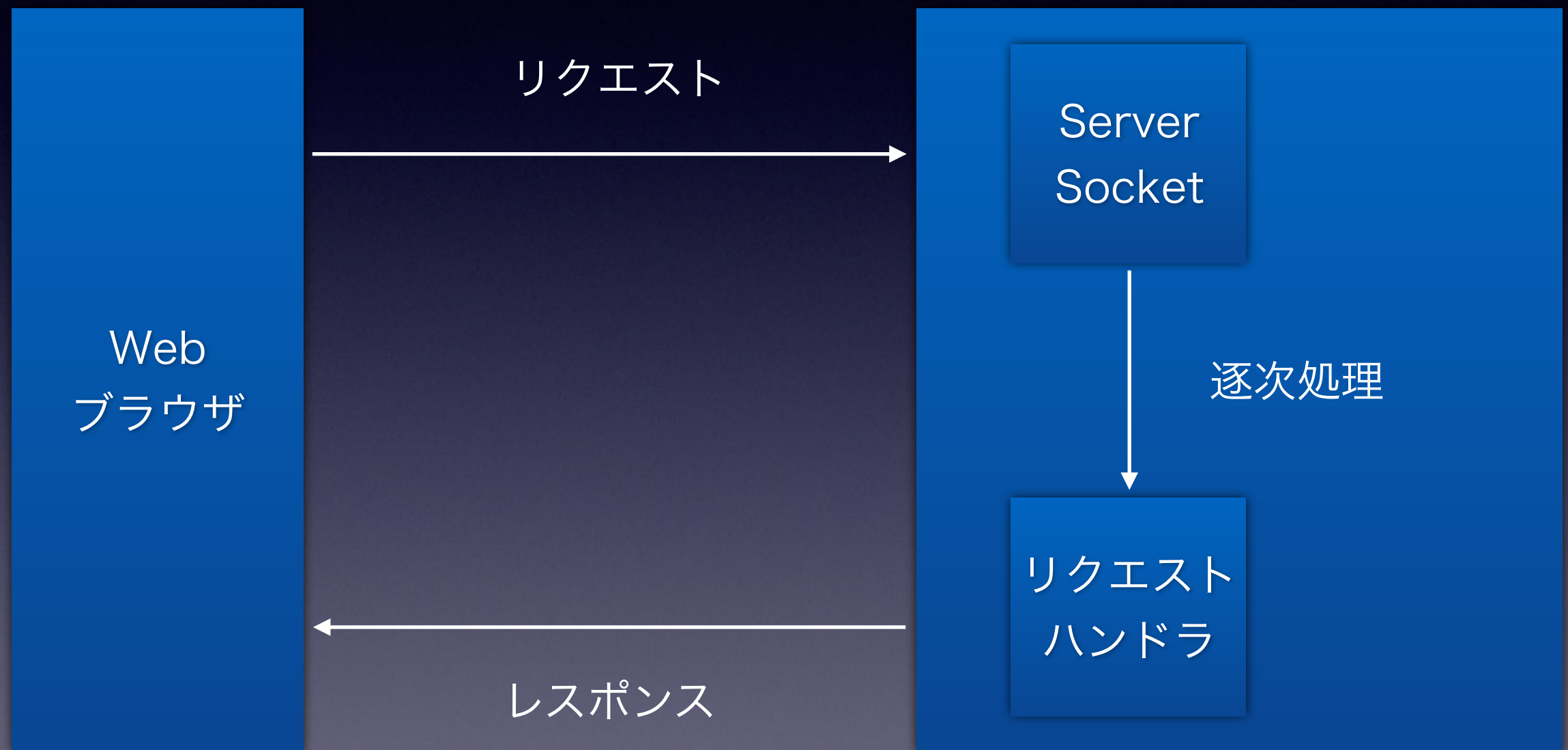
- ・ ConcurrentHashMapは、なぜ  
ConcurrentModificationExceptionを発生させ  
ずに処理出来るのか。
- ・ ConcurrentHashMap以外に使える並行コレク  
ション
  - ・ CopyOnWriteOneArrayとか



# タスクの実行

# 逐次処理webサーバの例（１）

- SequentialWebServer.java



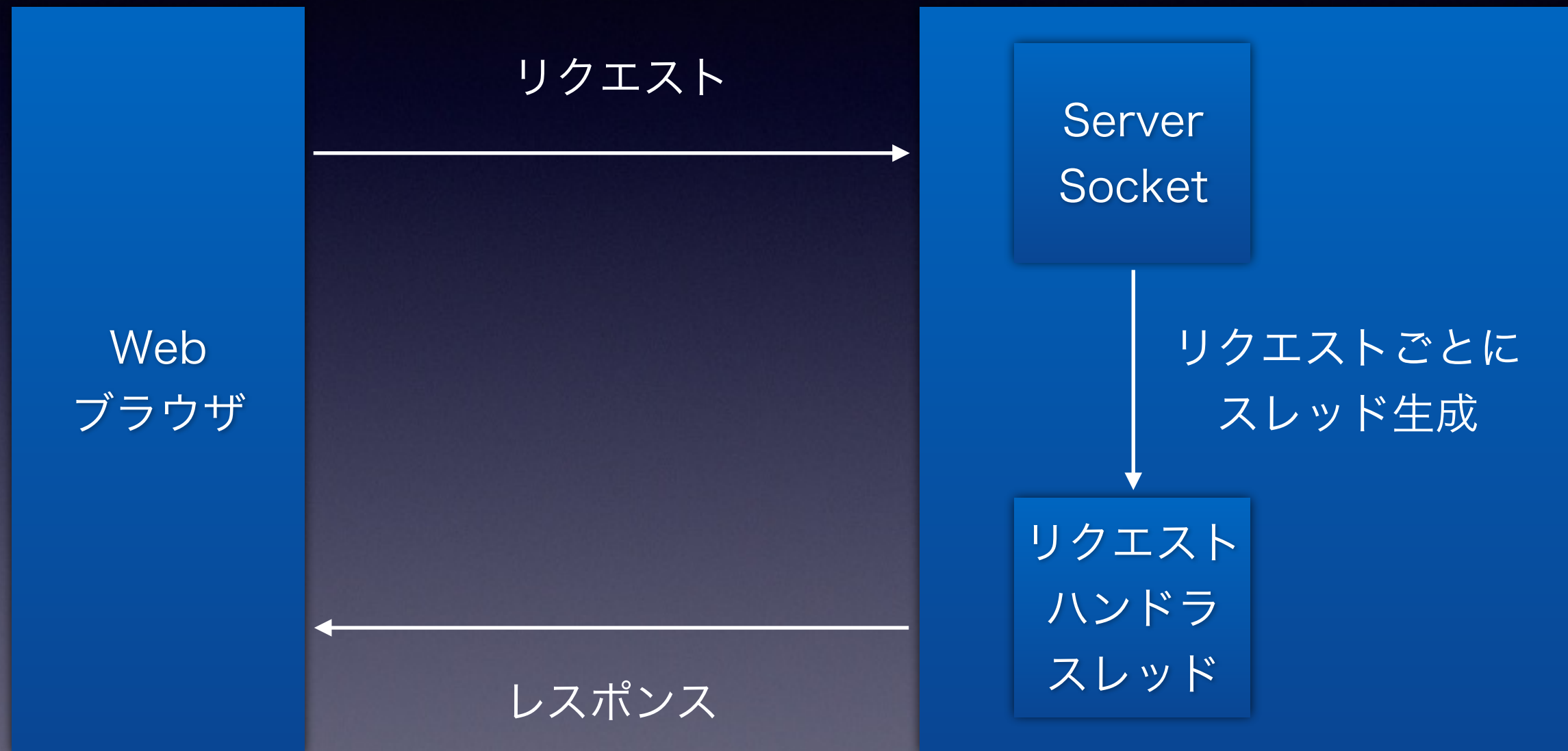
一つずつリクエストを処理する。前のリクエストが終わらないと、次のリクエストを処理できない。サーバ側が時間がかかることで、接続エラーになったり、クライアント側でタイムアウトしたりする。

# 逐次処理webサーバの例 (2)

- ・ 逐次処理webサーバの動作をみてみよう
  - ・ SequentialWebServer.javaを実行する
  - ・ 「クライアントからの接続を待ち受けます。」が表示されたら、ブラウザから以下のURLを開く  
<http://localhost:8888/>  
3秒ほど待つと、ブラウザに日時が表示される。
  - ・ WebClient.java (100スレッドでアクセスするwebクライアント) を実行する  
→接続エラーになったり、クライアント側でタイムアウトが発生したりするはず。
  - ・ SequentialWebServerを停止する

# 無制限スレッド生成webサーバの例（１）

- UnlimitedThreadWebServer.java



リクエストを受け付けるたびに、リクエストハンドラスレッドを生成する。  
前のリクエストの処理が終わっていなくても、次のリクエストを受け付けることが可能。**サーバ側のリソースを無制限に使用する。**



# 無制限スレッド生成webサーバの例（2）

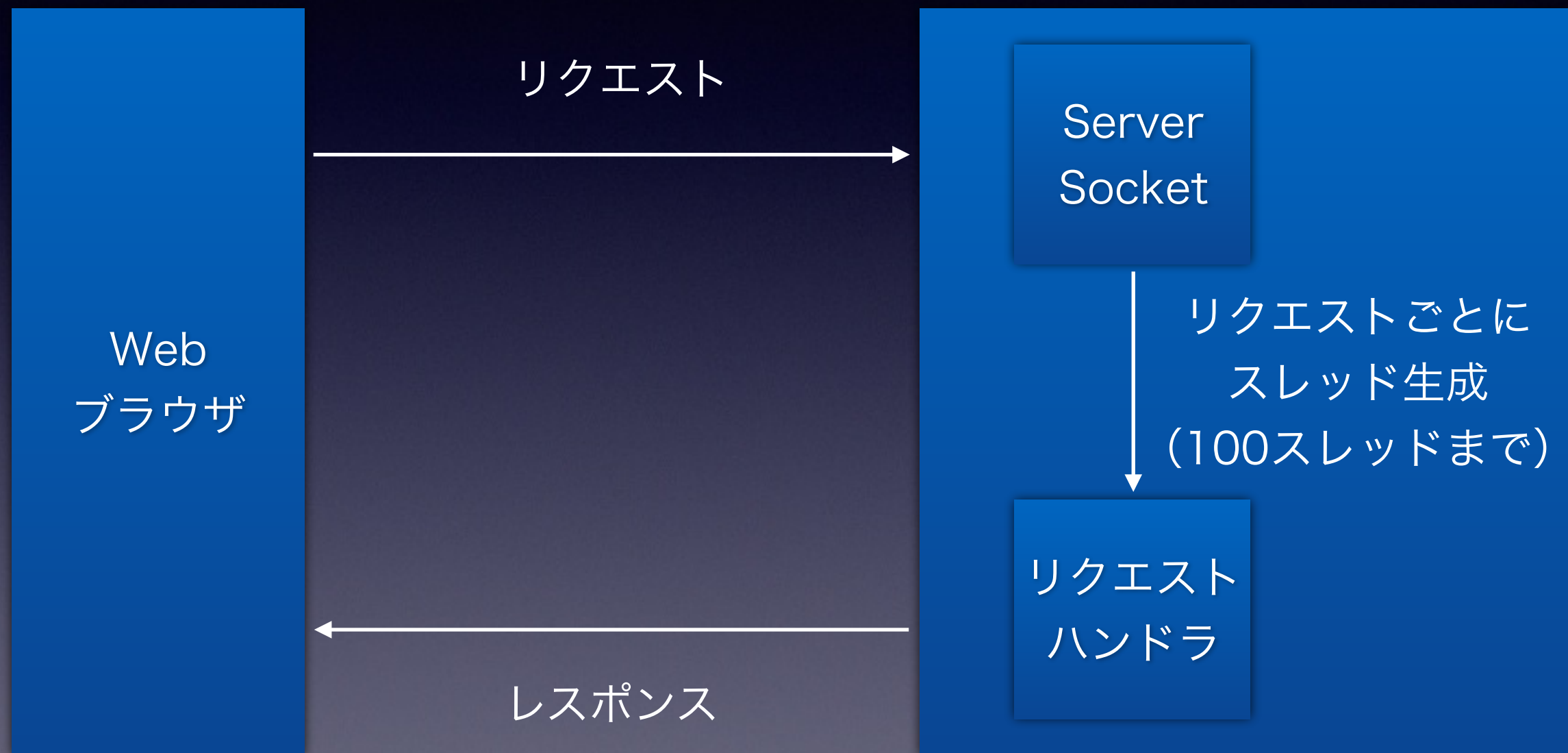
- ・ 無制限スレッド生成webサーバの動作をみてみよう
  - ・ UnlimitedThreadWebServer.javaを実行する
  - ・ 「クライアントからの接続を待ち受けます。」が表示されたら、ブラウザから以下のURLを開く  
<http://localhost:8888/>  
3秒ほど待つと、ブラウザに日時が表示される。
  - ・ WebClient.java（100スレッドでアクセスするwebクライアント）を実行する  
→クライアント側にコネクションエラーが出たり、サーバ側でOutOfMemoryError発生したりするはず。
- ・ UnlimitedThreadWebServerを停止する

# 無制限スレッド生成webサーバの例（3）

- ・ スレッドを無制限に生成することによる弊害
  - ・ 資源の消費
  - ・ 安定性
- ・ スレッドのライフサイクルのオーバーヘッド  
→スレッドの生成／破棄にかかるコスト

# Executorを使ったwebサーバの例（1）

- FixedThreadPoolWebServer.java



リクエストを受け付けるたびに、リクエストハンドラスレッドを生成する。  
前のリクエストの処理が終わっていなくても、次のリクエストを受け付けることが可能。スレッド数は最大100まで生成される。



# Executorを使ったwebサーバの例（2）

- ・ Executorを使ったwebサーバの動作をみてみよう
  - ・ FixedThreadPoolWebServer.javaを実行する
  - ・ 「クライアントからの接続を待ち受けます。」が表示されたら、ブラウザから以下のURLを開く  
<http://localhost:8888/>  
3秒ほど待つと、ブラウザに日時が表示される。
  - ・ WebClient.java（100スレッドでアクセスするwebクライアント）を実行する  
→正常終了するはず。（サーバから取得した日時が100行出力されればOK）
- ・ FixedThreadPoolWebServerを停止する



# 4種類のスレッドプール

- ・ `newFixedThreadPool`
  - ・ 固定数のスレッドを再利用するスレッドプールを作成します。  
→リソースの消費量を一定量に抑える。
- ・ `newCachedThreadPool`
  - ・ 必要に応じ、新規スレッドを作成するスレッドプールを作成しますが、利用可能な場合には以前に構築されたスレッドを再利用します。（スレッド数は無制限）  
→短期間のタスクをたくさん起動するアプリケーションに向く。
- ・ `newSingleThreadExecutor`
  - ・ 単一のワーカースレッドを使用する `executor` を作成します。
- ・ `newScheduledThreadPool`
  - ・ 指定された遅延時間後、または周期的にコマンドの実行をスケジュールできる、スレッドプールを作成します。

# Timerと

## ScheduledThreadPoolExecutor (1)

- ・ TimerとScheduledThreadPoolExecutorの動作をみてみよう
  - ・ TimerSample1.javaを実行する
  - ・ TimerSample2.javaを実行する
  - ・ ScheduledThreadPoolSample.javaを実行する
  - ・ タスクの中身は、MyTimerTask.javaに記述されています。
- ・ どういう違いがあったのでしょうか？

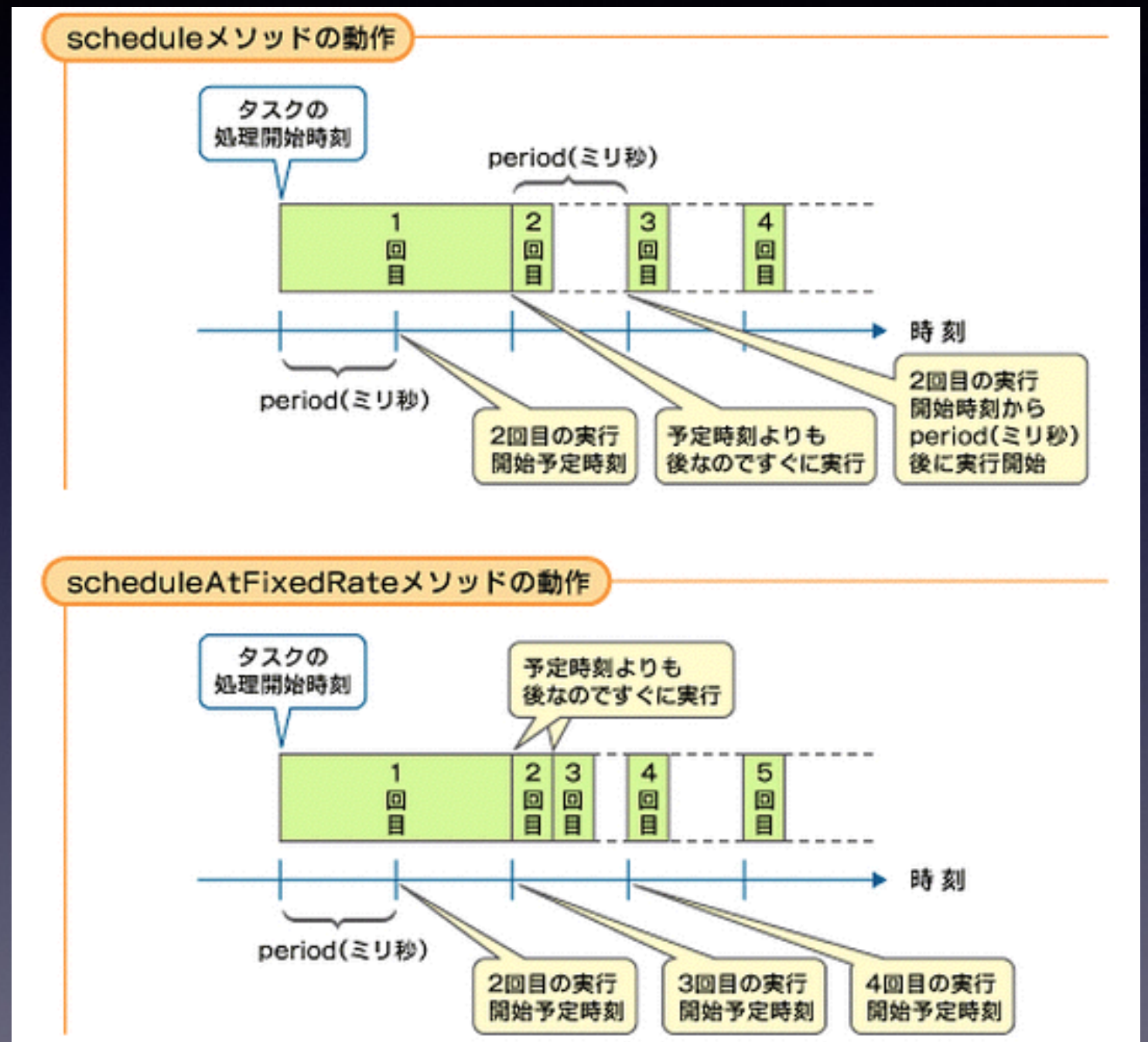
# Timerと

## ScheduledThreadPoolExecutor (2)

- Timer#scheduleとTimer#scheduleAtFixedRateの違い

- 下記、@ITの記事参照。

<http://www.atmarkit.co.jp/fjava/javatips/078java008.html>





# Timerと

## ScheduledThreadPoolExecutor (3)

- ・ TimerとScheduledThreadPoolExecutorの違い
  - ・ Timerは単一スレッドで実行されるのに対し、ScheduledThreadPoolExecutorは内部でスレッドプールを利用する。
  - ・ タスクが例外を発生させても、実行元に伝搬されない
  - ・ ※動作自体は同じ（遅延タスクがあっても、次のタスクが追い越すことはない；APIドキュメントに記載あり）



# 結果を返すタスクCallableとFuture（1）

- ・ java.lang.Runnableインタフェース  
public void run()
  - ・ 結果を返せないし、例外も投げられない。
- ・ java.util.concurrent.Callableインタフェース  
public V call()
  - ・ 結果を返せるし、例外も投げられる。

# 結果を返すタスクCallableとFuture (2)

- CallableWebClient.java

```
// タスク
Callable<String> task = new Callable<String>() {
 public String call() throws IOException {
 try {
 return CallableWebClient.sendRequest();
 } catch (IOException e) {
 throw e;
 }
 }
};

// リクエスト
ExecutorService executor = Executors.newCachedThreadPool();
List<Future<String>> futures = new ArrayList<Future<String>>();
for(int i=0; i<NUM_THREADS; i++) {
 Future<String> future = executor.submit(task);
 futures.add(future);
}

// 結果受け取り
for(int i=0; i<NUM_THREADS; i++) {
 Future<String> future = futures.get(i);
 try {
 System.out.println(future.get());
 } catch (Exception e) {
 e.printStackTrace();
 }
}
```

タスクのキャンセル

# タスクのキャンセルが必要な理由

- ・ ユーザがキャンセルをリクエストした
- ・ 時間制限のある活動
- ・ アプリケーションイベント
- ・ エラー
- ・ シャットダウン



# ユーザがキャンセルをリクエストした

- ・ GUIの例を見てみよう
  - ・ CancellableGUIを実行する
  - ・ clickボタンをクリックする  
→3秒ほど待つと、ラベルが「clicked.」に変化する
  - ・ 次に、clickボタンをクリックし、3秒待たずにと  
なりのcancelボタンをクリックする  
→cancelボタンをクリックしたタイミングで、ラ  
ベルが「cancelled.」に変化する

# 時間制限のある活動（1）

- ・ 5秒間FizzBuzzする例を見てみよう
- ・ TimerLimitTaskを実行する  
→ ひたすらFizzBuzzを表示し続け、5秒ほどすると停止する

# 時間制限のある活動 (2)

- TimeLimitTask.java

```
Runnable r = new Runnable() {
 public void run() {
 long i=1;
 while(true) {
 printFizzBuzz(i);
 i++;
 try {
 Thread.sleep(0);
 } catch(InterruptedException e) {
 // インタラプトされたらループ終了
 break;
 }
 }
 }
}
```

あえてThread.sleep(0)を入れることで、外部から割り込む余地を与えている。  
Thread.sleep(0)がないと、キャンセルできない。

# 時間制限のある活動 (3)

- TimeLimitTask.java

```
// スレッド開始
ExecutorService executor = Executors.newCachedThreadPool();
Future<?> task = executor.submit(r);

try {
 task.get(TIMEOUT, TimeUnit.SECONDS);
} catch(TimeoutException e) {
 // タスクはfinallyブロックでキャンセルされる
} catch(InterruptedException e) {
 // タスクはfinallyブロックでキャンセルされる
} catch(ExecutionException e) {
 // タスク中で投げられた例外：再投する
 throw new RuntimeException(e);
} finally {
 // タスクがすでに完了していたら無害
 task.cancel(true); // 実行中ならインタラプトする
}

executor.shutdown();
```

タイムアウト、正常終了に関わらず、cancelメソッドを呼び出す。

タスクが取り消せなかった場合（既に正常終了していた場合）はfalseを返す。

タスクが取り消せた場合はtrueを返す。（戻り値を無視しているため、いずれにしても正常扱い）



# シャットダウン可能なwebサーバ（1）

- ・ /stopをリクエストすると停止するwebサーバのサンプルを見てみよう  
→実用上はありません
- ・ CancellableWebServer.javaを実行する
- ・ 「クライアントからの接続を待ち受けます。」が表示されたら、ブラウザから以下のURLを開く  
<http://localhost:8888/>  
3秒ほど待つと、ブラウザに日時が表示される。
- ・ ブラウザから以下のURLを開く  
<http://localhost:8888/stop>  
ブラウザに日時が表示され、webサーバも停止する。

# シャットダウン可能なwebサーバ (2)

- CancellableWebServer.java

```
while(true) {
 System.out.println("クライアントからの接続を待ち受けます。");
 final Socket client = ss.accept();
 System.out.println("クライアントから接続されました。");
 Callable<Boolean> task = new Callable<Boolean>() {
 public Boolean call() throws IOException {
 return Boolean.valueOf(handleRequest(client));
 }
 };
 Future<Boolean> future = executor.submit(task);
 if(!future.get()) {
 // webサーバ終了
 break;
 }
}
```

Handlerから停止かどうかの判定結果を返すようにして、停止と判断されたら、無限ループ終了（クライアントからの待ち受け終了）。

# shutdownとshutdownNowの違い（１）

- ・ ＊/stopをリクエストすると停止するwebサーバのサンプルを見てみよう  
→実用上はありません
- ・ CancellableWebServer.javaを実行する
- ・ 「クライアントからの接続を待ち受けます。」が表示されたら、ブラウザから以下のURLを開く  
<http://localhost:8888/>  
3秒ほど待つと、ブラウザに日時が表示される。
- ・ ブラウザから以下のURLを開く  
<http://localhost:8888/stop>  
ブラウザに日時が表示され、webサーバも停止する。

# UncaughtExceptionHandler

- UncaughtExceptionHandlerSample.java

```
// UncaughtExceptionHandlerを定義
UncaughtExceptionHandler ueh = new UncaughtExceptionHandler() {
 public void uncaughtException(Thread t, Throwable e) {
 // 通常、標準エラー出力に出るところ、標準出力に表示するよう変更
 e.printStackTrace(System.out);
 }
};

// カレントスレッドにHandlerをセット
Thread.setDefaultUncaughtExceptionHandler(ueh);

// ランタイム例外を（意図的に）スロー
throw new RuntimeException("Runtime Exception!");
```

通常、catchしていない例外は、標準エラー出力にスタックトレースが表示されるが、この例では、標準出力にスタックトレースが表示される。アプリログへの出力や、メール通知などに利用すると良いらしい。



# JVMのシャットダウンフック

- ShutdownHookSample.java

```
// シャットダウンフックを定義
```

```
Runnable shutdownHookTask = new Runnable() {
 public void run() {
 System.out.println("shutdown hook");
 }
};
```

```
// シャットダウンフックを追加
```

```
Runtime.getRuntime().addShutdownHook(new Thread(shutdownHookTask));
```

複数のシャットダウンフックを設定することができるが、並行に動作するので、スレッドセーフにする必要がある。一つだけ設定した方が分かりやすい。  
→一時ファイルの削除や、OSがクリーンアップしない資源の削除に使うと良いらしい。

# デーモンスレッド (1)

- ・ スレッドには、正規のスレッドとデーモンスレッドの2種類がある
- ・ JVMが始動するとき、正規のスレッドはメインスレッドのみ。その他は全てデーモンスレッド。  
(ガーベッジコレクタ、ファイナライザなど)
- ・ スレッドが終了したとき、JVM内に残っているスレッドがデーモンスレッドのみの場合、JVMのシャットダウンを開始する

# デーモンスレッド (2)

- ・ どのようなスレッドが実行されているか見てみよう
  - ・ FixedThreadPoolWebServerを実行する
  - ・ コマンドラインからjpsを実行
    - FixedThreadPoolWebServerの左横に表示された数字を覚える
  - ・ コマンドラインからjstack <pid>を実行
    - スレッドダンプが表示される
  - ・ jvisualvmコマンドを実行
    - GUIが起動する
  - ・ ブラウザから<http://localhost:8888>へアクセス
    - スレッドが起動する様を確認できる

まとめ



# リソース

- ・ ハンズオンソースコード

[https://github.com/taka2/  
MultiThreadHandsOn](https://github.com/taka2/MultiThreadHandsOn)

- ・ Java並行処理プログラミング —その「基盤」と  
「最新API」を究める—

ISBN: 978-4797337204

# 宿題